

「皆与志小学校の棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島市立皆与志小学校

2 学年・人数

3年生から6年生 (21人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年5月9日・11日 (5時間目 体育) 本校体育館

5月13日 (1・2時間目 総合的な学習の時間) 本校体育館

5月15日 (3・4時間目 総合的な学習の時間) 本校体育館

5月16日 (3時間目 総合的な学習の時間) 本校校庭

(2) 発表の日時・場所

令和5年5月21日 幼・小・校区合同運動会 本校校庭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

「棒踊り (ぼうおどり)」

(2) 由来

江戸時代、五穀豊穰と無病息災を祈願するために踊られ、願立祭当日に地域の小鷹神社で奉納踊りをしたことをきっかけに、各地域の公民館で踊られるようになった。

(3) 構成等

キョゲン・シベ・打分・小無双・鎌の5つの踊りで構成。

浴衣にたすきをまき、シベは左手にキョゲン棒、右手にシベをもち中腰から踊りはじめる。“エンヤーサッサー”や“ヤーア・シ”“ア・ソイソイ”のかけ声をかけ踊る。特に鎌は勇壮な踊りになっている。

5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間に、皆与志に昔から伝わる「棒踊り」を通して、地域の人々の暮らしや文化について、興味・関心をもち、伝承していくことの大切さや課題に気付き、解決に向けて主体的に取り組む態度を育て、追及する活動の過程に、踊りの練習を位置付けている。

講師は上棒踊り保存会にお願いし、今年度は土曜授業日を含めて5回指導をしていただいた。子供たちは、運動会前には、朝の自主トレの時間にも積極的に練習に取り組んだ。踊りに必要な道具は、保存会の方から指導をいただき、学校で作成しているが、補修をしながら使っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら、棒踊りを継承していくために、3年生から6年生まで4年間を通して学ぶ時間を設けている。保存会の方から学んだ踊りを下の学年に継承するために、高学年が下学年に踊りを指導することができるようになる。令和元年に初めて、棒踊り保存会の方と一緒に、運動会で披露し、その後はコロナ禍のために自粛し、披露できない状態が続いたが、昨年復活させることができた。中学校に進学した子供たちが、中学校でも自分たちで「棒踊り」について調べ、発表したことを聞き、伝統継承にいい流れができてきている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【5月13日 棒踊り保存会の方々に教わり練習】



【幼・小・校区合同運動会での披露】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 教育実習の先生と一緒に楽しく踊ることができた。【4年生児童】
- 昨年引き継いだ6年生が中心となって、素晴らしい披露になった。この棒踊りの取組を通して子供たちは皆与志のよさをよりいっそう感じ取っていると思う。【教職員】
- 昨年以上に踊りが形になってきている。今後も、伝承活動の時間を確保してほしい。【保存会から】
- 子供たちの掛け声が校庭に響き、一生懸命踊っている姿がとても素晴らしい。教えてくださる地域の方にも感謝したい。【4年保護者から】